

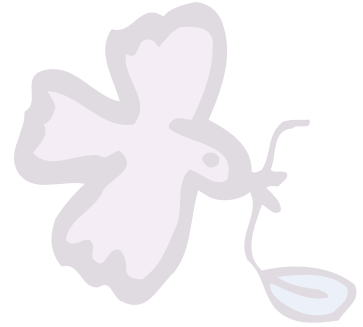
WebアクセシビリティJIS

開発と制作における個別要件 — 非テキスト情報 —

画像に意味を持たせる「ALT属性」の付け方は

WebアクセシビリティJIS解説の中でもキーポイントとなる重要な部分だ。

これだけで一冊の本が書けるくらい、難しく、かつ面白い部分でもある。



関根千佳 = 文

ユーディット 代表取締役
情報のユニバーサルデザイン研究所

WebアクセシビリティJISの中では、画像や音声、動画などのオブジェクトを「非テキスト情報」という言い方でまとめている。ここでは「非テキスト情報」の内容をどのように扱うか、また多様なユーザーの利用状況を考えながら、どのように代替的に伝えるかを解説していく。

1.4 非テキスト情報

- a 画像には、利用者が画像の内容を的確に理解できるようにテキストなどの代替情報を提供しなければならない。

写真やイラストなどの画像には、HTMLであればALT属性を付けて、その画像の意味を伝える必要がある。ただ、これが意外に難しい。長すぎると煩わしいし、単に「写真」や「イメージ」だけだと意味が分からない。前号で紹介した「ようこそさっぽろ」(<http://www.welcome.city.sapporo.jp/>)などは、短く的確に写真の内容を伝えているよい例だ。同サイトでは大量の写真に掲載する場合の配慮もされている。

「ようこそさっぽろ」の現在の特集は、昨年開催された「ミュンヘンクリスマス市 in Sapporo」で、会場で撮影された美しい写真が並ぶ。個別の写真にALT属性はなく、最初の画像に「画像：以下、写真が続きます」とだけある。音声ブラウザではまったく違和感はないし、このままでもアクセシビリティ的には良いのだが、欲を言えば、それぞれの写真の説明をALT属性に記述しておけばさらに親切である。



ようこそさっぽろ(上)：大量の写真がある場合は、ALT属性の付け方も悩むところ
高山市(下)：写真のタイトルとALT属性が同じなので二重読みになってしまう

また、そばにテキストを付けることでも画像を説明できるが、ALT属性を付けないとアクセシビリティのチェックツールが指摘することから分かるように、説明不要と判断した場合でも「ブランク」を入れることが望ましい。JISでも参考として「あえて空にしたことが分かるように、次のように明示的に空を指定する」と説明してある。

また、テキスト上と同じ内容をALT属性に入れると音声ブラウザでは二重読みになって聞きにくい。例えば高山市の観光サイト(<http://www.hidakayama.or.jp/kanko/>)には美しい写真ライブラリーがあるが、音声で聞くと二重読みになるうえ、説明も「秋の風景」が1から14まで続くだけというケースがあるなど、内容が分からず少し物足り

ない。ALT属性に「紅葉に囲まれた池と合掌造りの家」と入れたり、ALT属性は空白にして「秋の風景10 紅葉の池と合掌造り」とそれぞれの写真にコメントがあったほうが、その土地をよく知らない観光客にも理解しやすいだろう。

しかし、画像によっては詳細な説明を入れると、逆効果となる場合もある。ニュースの写真に解説は必要だが、単なるイラストであれば何も入れないほうがよい。ALT属性は、奥が深く、どこまでやっても万人の合意に至らないときもある。伝えたいものは何なのか、メディア編集力が問われるところだ。何度か音声ブラウザで聞いてみて、違和感のない説明を付ける訓練をしながら、経験を積んでいたきたい。

b ハイパーリンク画像には、ハイパーリンク先の内容が予測できるテキストなどの代替情報を提供しなければならない。

かつては、自治体のトップページに首長の大きな写真があり、そこだけがサイトへの入り口という自治体があった。このハイパーリンク画像にALT属性がないため、音声ブラウザ利用者はそこから先へ一歩も進めなかった。今ではそのようなサイトは減っているが、まだALT属性の付け方に慣れていないと感じることもある。

例えば、神戸市のトップページ(<http://www.city.kobe.jp/>)にある画像リンク。ここに季節ごとの風景写真が表示されるが、これが神戸メルマガの表紙にリンクされており、クリックするとそのままメルマガの表紙ページに入ってしまう。ALT属性に説明はあるものの、写真を見ただけではリンク先が予測できない。トップページの画像になんらかの役割を持たせることは悪くないが、それが予測可能で、かつ、関連する項目と論理的につながっていないと、利用者が混乱してしまう。

また、筆者がアクセスしたときの写真のリンク先であった農業公園・ワイン城 (<http://www.exd.city.kobe.jp/kobewinery/>)には、ハイパーリンク画像にALT属性がなく、なおさら残念である。徐々に改善していただきたい。

c Webコンテンツの内容を理解・操作するのに必要な音声情報には、聴覚を用いなくても理解できるテキストなどの代替情報を提供しなければならない。

自治体サイトではあまり存在しないかもしれないが、キ



ワイン城(上):メニューボタンにALT属性そのものが付いていない
神戸市(下):ALT属性はあるが、リンク先がわかりにくい

ップページなどにクイズ形式で情報を掲載するときなど、「大当たり!」、「残念!」と音声で出すことがある。これは音声だけでなく、吹き出しなどで説明したほうがよい。

d 動画など時間によって変化する非テキスト情報には、字幕または状況説明などの手段によって、同期して代替情報を提供することが望ましい。同期した代替情報が提供できない場合には、内容についての説明を何らかの形で提供しなければならない。

動画配信などには、できるだけSMIL(動画などのデータ再生を制御し同期させる言語)などで字幕を入れたり、副音声の解説を入れることが望ましい。画像だけでは内容が分かりにくい聴覚障害者や、音声だけでは状況が分かりにくい視覚障害者、また子どもや日本語が母国語ではない人、高齢者などにとっても便利である。

e アクセス可能ではないオブジェクト、プログラムなどには、利用者がその内容を的確に理解し操作できるようにテキストなどの代替情報を提供しなければならない。また、アクセス可能なオブジェクトまたはプログラムに対しても、内容を説明するテキストなどを提供することが望ましい。

よく意味が分からないと言われる項目であるが、要するにPDFやFlash、Javaアプレットなどで提示された情報にも、きちんと代替情報を付けましようということである。